

横浜市議員(保土ヶ谷区)

いそべ圭太

生まれ育った ふるさと 保土ヶ谷のために

政務調査レポート第17号 討議資料

地域の歌で地域を元気に！ 6月2日は横浜開港記念日です！

私は、本拠地を横浜に構えるプロスポーツチームのホームゲームで、横浜市歌を合唱できないかと考えています。このアイデアは「子どもと一緒に市歌を歌う機会ってないわね」という、あるお母さんの一言に端を発します。子どもは学校で横浜市歌を習い歌えますが、お父さんやお母さんが横浜市歌を知らないというケースがよくあります。ご両親が共に横浜市出身でない場合です。子どもが市歌を歌えるのに親が歌えないのは、勿体ないと常々感じていました。自然な形で歌える場はないだろうかと思いを巡らせた中で、辿りついたのが「スポーツ」です。

アメリカの大リーグやJリーグの事例にならって

アメリカの大リーグでは7回の攻撃の際に「私を野球に連れてって」の歌が流れ球場全体で合唱します。日本でもサッカーのJリーグでは、川崎フロンターレの本拠地・等々力陸上競技場で「川崎市民の歌」を合唱します。歌とスポーツは親和性が高いのです。横浜には「横浜DeNAベイスターズ」「横浜F・マリノス」「横浜FC」「ビー・コルセアーズ」と実に4つのプロスポーツチームがあります。海外や川崎

フロンターレの事例にならい、ホームゲームの会場で横浜市歌を歌う機会が増えれば、市民にとり地域密着とチームへ愛着を持つ人が増えるのではないかと思います。

プロスポーツと横浜市歌 そして保土ヶ谷区の歌を

これからの日本に必要なのは地域の一体感だと考えます。横浜市歌という素晴らしい文化的財産を持ち、しかも4つのプロスポーツチームが存在する横浜です。これだけ条件が揃っているのですから歌とスポーツで、横浜という地域性をさらに強く打ち出せるはず。そして、それこそが横浜の新しい魅力になり、地域に根ざそうとするプロスポーツチームへの強力な後押しになるはず。横浜スタジアムや日産スタジアムのホームゲームで横浜市歌を合唱することが地域の一体感を育む方法だと考えます。横浜市では、百年続く「横浜市歌」を。保土ヶ谷区では、地域の力で作った歌「わがまち、保土ヶ谷」を。歌を歌うことで、ひとり一人が郷土を愛し大切にするきっかけとなればと思います。それを未来永劫歌い継いでいければと切に願います。

地域オリジナルの歌で一体感を

そのほかにも各自治会町内会で、地域の歴史や土地柄を歌詞にした〇〇音頭など地域の特性となっています。盆踊りが始まるこれからの時期、耳を傾けるとみなさんの街でも地域の歌が流れるかもしれません。まずは歌で一体感を作り出し元気な保土ヶ谷、元気な横浜をみんなの手で作っていきましょう。



「横浜市歌」

作詞 森林太郎(森鷗外)
作曲 南能衛

わが日の本は島国よ
朝日かがよう海に

連りそばだつ島々なれば
あらゆる国より舟こそ通え

されば港の数多かれど

この横浜にまさるあらめや
むかし思えば とま屋の煙

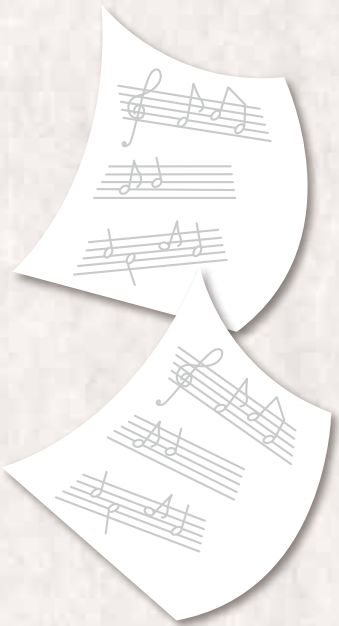
ちらりほらりと立てりしところ

今はもも舟もも千舟

泊るところぞ見よや

果なく栄えて行くらんみ代を

飾る宝も入りくる港



「わがまち、保土ヶ谷」

作詞 貝原萌奈実
作曲 岡島雅興

世界をつなぐ横浜の
港の西に見える町

すみれの花が咲きかおり
カルガモの群れがやってくる
豊かな自然に恵まれた

我が故郷(ふるさと)保土ヶ谷

東海道の宿場から

続く歴史は今もなお
町の平和と発展を

願う我らで創り出す
夢と希望に満ちる町

明日(あす)へと続く保土ヶ谷

帷子川は歌を乗せ

時代と共に流れてく
ここに生きる人々の

笑顔は今日も輝いて
肩を寄せ合い手をつなぐ

結ぶみんなの保土ヶ谷

未来の命の幸せを

築くみんなの保土ヶ谷

「横浜市歌」

小学生時代を横浜市で過ごせば、誰もが歌える横浜市歌。

1909年(明治42年)7月1日に行われた横浜港の開港50周年記念祝祭にて披露されて以来、実に百年以上も横浜市民に歌い継がれています。

作詞は明治の文豪である森林太郎(森鷗外)氏、作曲は当時東京音楽学校(現、東京藝術大学)助教授だった南能衛(よしえ)氏です。

これだけ広く市民に知られ親しまれている横浜市歌は、横浜市が誇るべき文化的財産ではないでしょうか。

現在も市立の小学校では、校歌と共に歌唱指導がされています。そして、開港記念日(6月2日)や卒業式などの様々な行事で、演奏・斉唱されています。因みに、横浜開港は1859年6月2日です。

「わがまち、保土ヶ谷」

平成19年に保土ヶ谷区制80周年を記念して20万区民の心が一つになり、後世に残せるものをと趣旨から区民の作詞・作曲による「わがまち、保土ヶ谷」が、保土ヶ谷区の歌に制定されました。

「わがまち、保土ヶ谷」は、詞を区民から公募し区民が作曲したという、区民の手作りにより完成した歌です。

「地域オリジナルの音頭など」

そのほかにも各自治会町内会などで、その地域の歴史や土地柄を歌詞にした〇〇音頭などが作られています。



いそべ圭太プロフィール

1981年(昭和56年)8月26日 32歳
保土ヶ谷生まれ 保土ヶ谷育ち 保土ヶ谷在住
横浜市立星川小学校・横浜市立保土ヶ谷中学校・神奈川県立保土ヶ谷高校
帝京大学法学部法律学科 卒業
高校時代には生徒会長
横浜市内の民間企業に就職・5年間在籍
2011年(平成23年)横浜市議員 保土ヶ谷区選出(1期目)
建築・都市整備・道路委員会 委員
基地対策特別委員会 委員

みなさまの声を
お聞かせください!



横浜市議員

磯部圭太政務調査事務所

〒240-0065 横浜市保土ヶ谷区和田 1-20-22

TEL 045-337-3331

FAX 045-337-3332

個人HP <http://www.iso-becchi.com>

E-mail keita-isobe@iso-becchi.com